キックオフ®から始める、葉菜類の害虫対策

農林水産省登録
第２２７２５号

浸透移行性殺虫剤 クロラントラニリプロール・ジノテフラン水和剤

キックオフ® 顆粒水和剤

キックオフは三井化学アグロ（株）の登録商標

有効成分：クロラントラニリプロール‥4.0%
ジノテフラン‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥15.0%

人畜毒性：普通物※

※「毒物および劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

コナガ

ヨトウムシ

ナモグリバエ

モモアカアブラムシ

アオムシ

ハスモンヨトウ

オオタバコガ

カブラヤガ

葉菜類の、害虫防除のポイント

ポイント1 初期から低密度に保つこと

害虫による加害を防ぐには、栽培初期から害虫の密度を抑えて、低密度に保つことが重要です。
生育期後半は植物体が大きくなり、散布した薬剤がすみずみまで到達しづらくなることに加えて、結球した作物の内部への害虫の侵入を許すと、いよいよ対策が困難になります。
キックオフ®顆粒水和剤は、育苗トレイに灌注した有効成分がすみやかに植物体内にとりこまれて、トレイ苗に寄生した害虫の本圃への持込を防ぐとともに、定植後も長い残効を発揮するため、本圃での害虫防除に無理なくつなげることができます。アブラムシ類・ナモグリバエ・チョウ目害虫・カブラヤガなど広範囲の害虫を幅広く抑えるのもポイントです。

ポイント2 ローテーション散布を心がける

殺虫剤には、害虫に対する作用の仕組みが異なる幾つかの系統がありますが、同じ系統の殺虫剤を連続して使用し続けると、害虫が薬剤抵抗性を獲得して、効果が低下することがあります。
薬剤抵抗性の発生を防ぐため、特定の系統に偏らないよう異なる薬剤を選んで散布することを「ローテーション散布」といいます。例えば同系統の薬剤が少ないトルネード®フロアブルは、ローテーション散布に活用しやすい薬剤の一例です。
右ページに主な殺虫剤の系統と特長を、見開きに各作物・作型ごとのローテーション散布の一例を掲載しましたので、防除の参考にご覧ください。

ポイント3 発生する害虫の見極めを

効率的な害虫防除には、地域指導機関による発生予察などの情報を入手することにくわえて、本圃で実際に観察することにより発生種を把握したうえで、効果のある殺虫剤を適切に組み合わせることが大事です。とくにチョウ目害虫は種類が多く、殺虫剤への感受性も種によって異なるので、下の写真を参考に注意深く観察してください。

【参考】葉菜類を加害する、主なチョウ目害虫の幼虫

ハスモンヨトウ

若齢：約1.5cm以下、老齢：約4cm
灰暗緑～暗褐色（変異が著しい）
各体節に左右一対の紋（斜紋）あり
さといも、だいず、いちご、トマト、はくさい、キャベツ、レタス、花卉等

ヨトウムシ

若齢：約1.5cm以下、老齢：約3～4cm
淡緑色、淡～暗褐色（変異が著しい）
1～2齢幼中は尺取虫のように歩行
キャベツ、はくさい、だいこん、ほうれんそう、レタス、トマト等

コナガ

若齢：約0.5cm以下、老齢：約1cm
淡緑色
触ると飛び跳ねて逃げる
キャベツ、はくさい、ブロッコリー、だいこん等のアブラナ科野菜が中心

アオムシ

若齢：約1.5cm以下、老齢：約3cm
緑色
体表面に細かい毛、動きが鈍い
キャベツ、はくさい、ブロッコリー、だいこん等のアブラナ科野菜が中心

オオタバコガ

若齢：約1.5cm以下、老齢：約3.5～4cm
緑色、淡黄褐色～茶褐色
体節の毛が目立つ
キャベツ、レタス、トマト、ピーマン、なす、いちご、オクラ、花卉等

ハイマダラノメイガ

若齢：約1cm以下、老齢：約1.5cm
淡褐色～茶褐色
主に幼植物の生長点付近を加害
キャベツ、はくさい、ブロッコリー、だいこん等のアブラナ科野菜が中心

ウワバ類

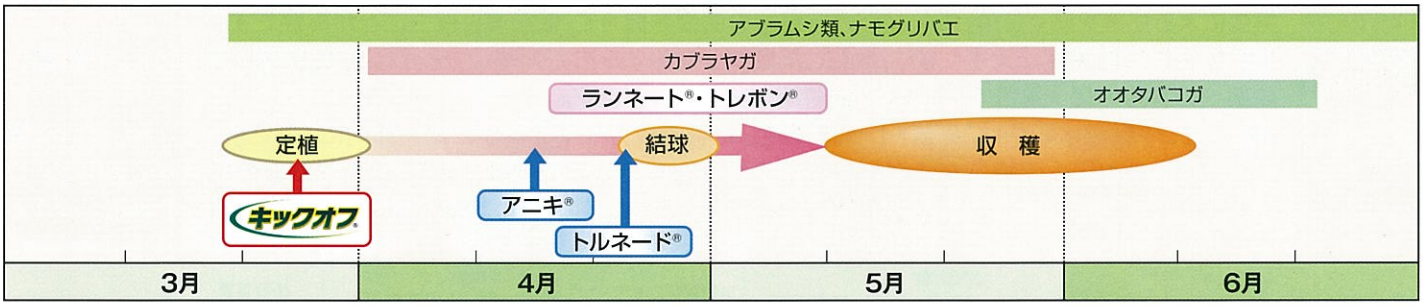
若齢：約1.5cm以下、老齢：約3.5cm
白っぽい緑色
頭部側が細い、尺取虫のように歩行
キャベツ、はくさい、ブロッコリー、だいこん等のアブラナ科野菜が中心

キックオフ® 顆粒水和剤

キックオフ®から始めましょう。 ～葉菜類の害虫防除～

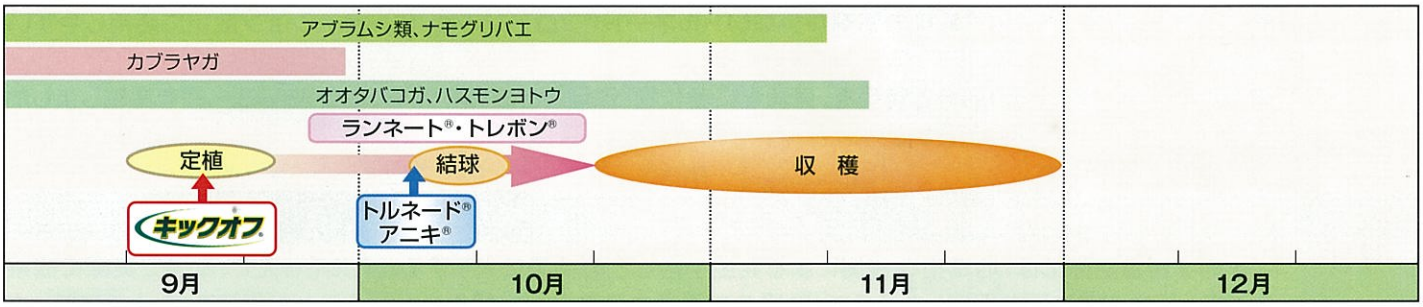
※定植・結球・収穫の時期は、地域・作型によって差異があります。

レタス（春まき初夏どり）



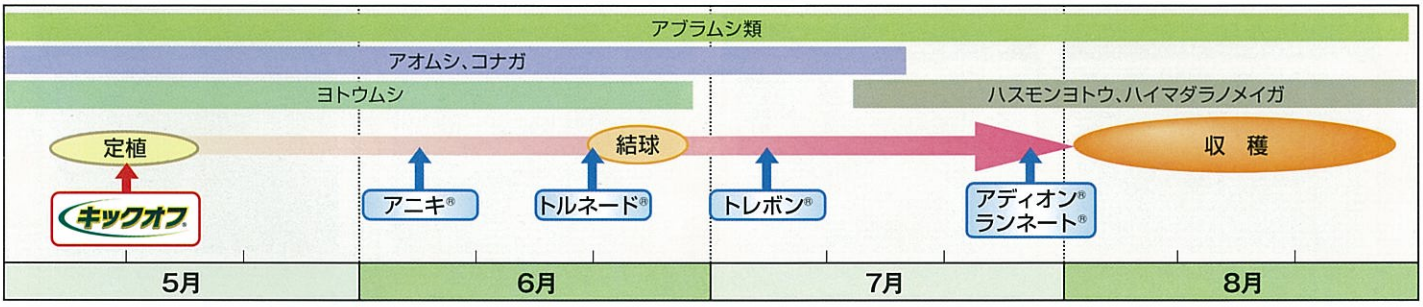
ポイント 定植時のキックオフ®顆粒水和剤で、チョウ目害虫とアブラムシ・ナモグリバエを3～4週間、抑えます。後半のチョウ目はアニキ®乳剤・トルネード®フロアブルで。アブラムシ対策を兼ねた追加防除にはランネート®45DFかトレボン®乳剤を。

レタス（夏まき秋どり）



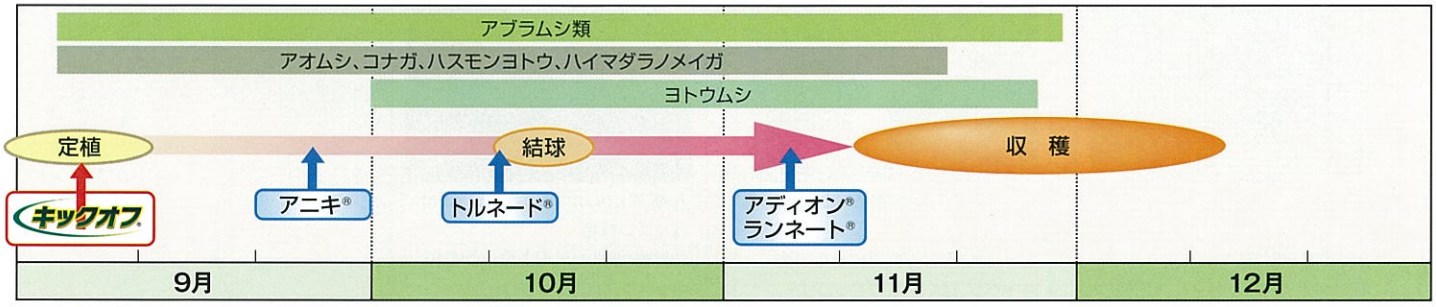
ポイント 害虫の発生が多いので、春まきよりもやや早めに3週間後から殺虫剤散布を行います。結球初期のチョウ目防除には、トルネード®フロアブルやアニキ®乳剤がお役にたちます。

キャベツ（春まき初夏どり）



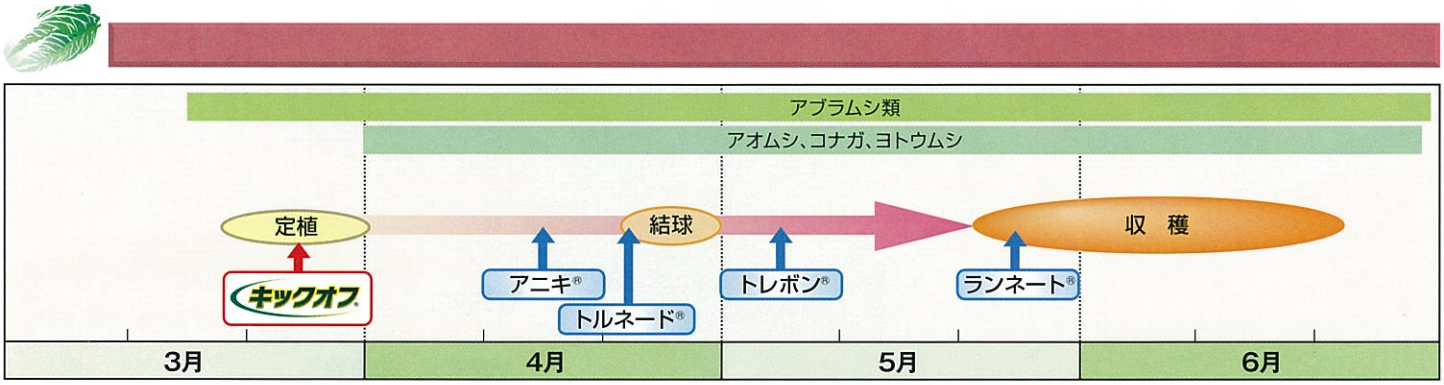
ポイント チョウ目害虫の防除を機軸に、異なる系統の薬剤でローテーションをつなげていきます。アブラムシ対策を兼ねて広スペクトラムのトレボン®乳剤、収穫が近づいたら3日前まで使えるアディオン®乳剤やランネート®45DFを。

キャベツ（夏まき秋冬どり）



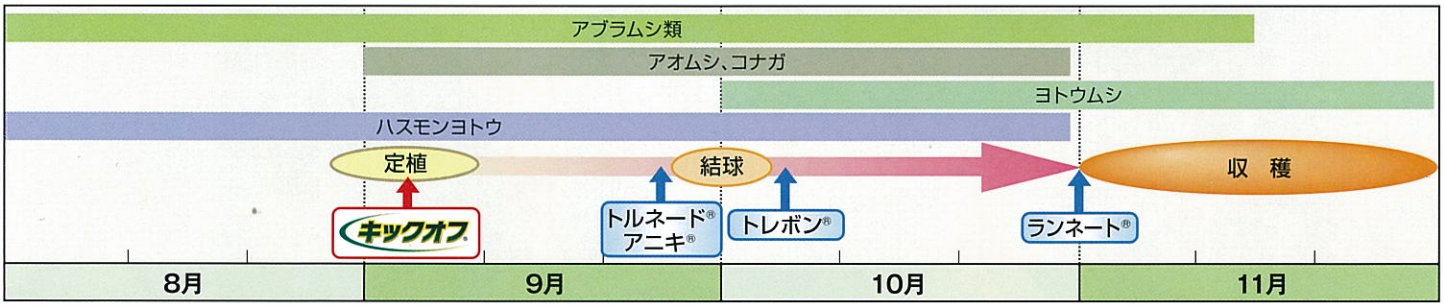
ポイント 秋口の害虫発生が多いので、春まきよりもやや早めに3週間後から殺虫剤を散布します。結球初期にはトルネード®フロアブルを。ランネート®45DFは広スペクトラムで、キャベツなら3日前まで使えます。

キックオフ®から始めましょう。 ～葉菜類の害虫防除～



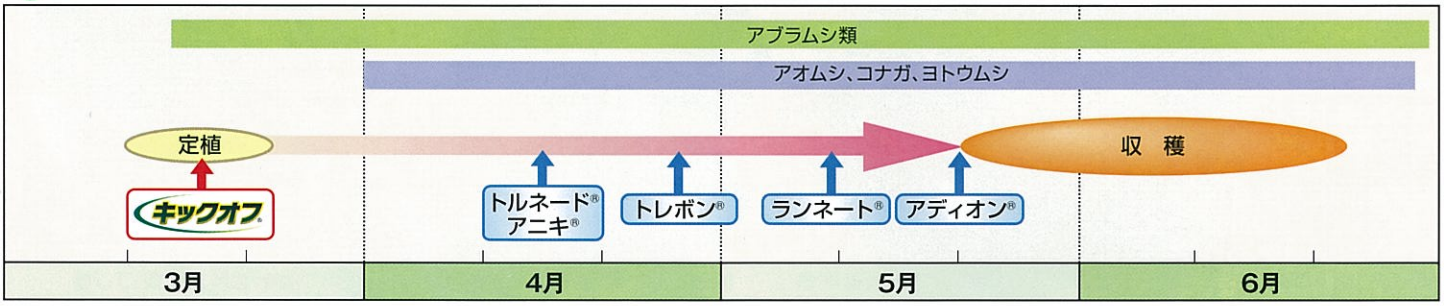
ポイント 定植時のキックオフ®顆粒水和剤で、チョウ目害虫とアブラムシを長期間、抑えます。後半のチョウ目はアニキ®乳剤・トルネード®フロアブルでカバーしつつ、アブラムシ対策にトレボン®乳剤も。仕上げには前日まで使えるランネート®45DFが便利です。

はくさい（秋まき栽培）



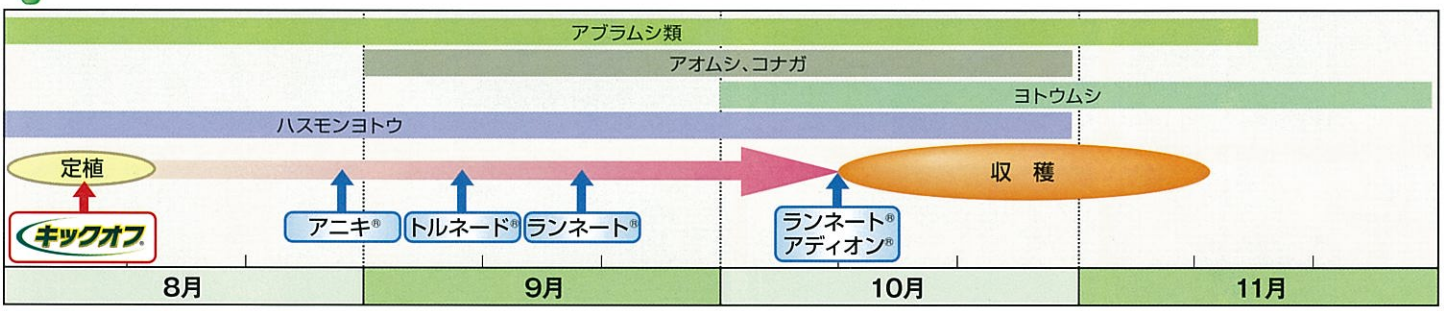
ポイント 秋口の害虫発生が多いので、定植3週間後からアニキ®乳剤やトルネード®フロアブルで着実に密度を抑えます。10月以降はヨトウムシを警戒、もしものときには収穫前日まで使えるランネート®45DF。

ブロッコリー（春まき初夏取り）



ポイント キックオフ®顆粒水和剤の長期残効で、チョウ目害虫の初発も低密度に抑えます。アニキ®乳剤、トルネード®フロアブルで繋いで、仕上げはスペクトラムが広く収穫3日前まで使えるアディオン®乳剤を。

ブロッコリー（夏まき秋冬どり）



ポイント 秋口の害虫発生が多いので、定植3週間後からアニキ®乳剤とトルネード®フロアブルで着実に密度を抑えます。10月以降、もしものときには速効性のランネート®45DFか収穫3日前まで使えるアディオン®乳剤を。